

UDCBK 令和2(2020)年度実施予定事業

1. 事業プロジェクト

(1) 都市デザイン連携プロジェクト

① 南草津駅周辺の公園を中心としたまちづくり

南草津駅周辺の公園を中心としたまちづくりを進めるために、南草津駅西口東山道記念公園の利活用について、令和元年度から取り組んでいる「みなくさまちライブラリー」を活用した市民のコミュニティーの形成やまちの賑わい創出に加え、健康寿命の延伸に繋がる少子高齢化社会に対応できる能力を考える。また、南草津プリムタウンの公園づくりにおいて、同事業地区の5つの公園について、令和元年度の1号公園に引き続き、これから居住する住民の要望や意見を踏まえ、かつ十禅寺川沿いの景観にも配慮した新しい公園づくりを、市民、土地区画整理組合、草津市、大学などと連携して進める。また、学生が授業で製作した都市建築デザインの作品のUDCBKでの展示を継続して行い、多様な視点からのまちづくりを考える。

② 地域再生計画支援

草津市では超高齢社会を見据え「立地適正化計画」「草津市版地域再生計画」「公共交通網整備計画」を策定し、新たなまちづくりの模索が始めている。UDCBKは対象地域の住民主体のまちづくりの取り組みを研究会への参加や専門家を招いたセミナーなどにより支援する。

(2) 都市と交通プロジェクト

草津市は都心である草津駅と副都心である南草津駅の2駅を核としたまちとして発展してきており、草津駅周辺のまちづくりとして中心市街地活性化事業、湖岸部などの市街化調整区域の持続可能なまちづくりとして草津市版地域再生計画に基づく事業を進めている。

1994年のJR南草津駅開業以降、周辺地域は急速に開発が進み高密度な市街地となった。南草津駅はその利便性から大手企業従業員や立命館大学学生の主たる利用駅となり、現在、滋賀県トップの乗降客数である。南草津の駅勢圏はベッドタウンとして急速に発展し、それに伴って都市空間に関わる課題は交通インフラをはじめ少なくない。「コンパクトシティプラスネットワーク」「健幸都市」をコンセプトとした草津市の今後の発展にとって南草津駅周辺の将来ビジョンを大きく描くことは重要な課題である。

令和元年度、立命館大学・滋賀県・草津市都市計画部・UDCBKで都市と交通シナリオスタディ研究会を開催し、2020～2040年の南草津駅周辺の将来像を複数のシナリオとして描く中で交通インフラを含む望ましい都市空間のあり方について準備的な議論を進めた。

令和2年度は、都市と交通シナリオスタディプロジェクトのバージョンアップを図り、専門家のレクチャー、産学公民連携ワークショップなどを通じて、長期的な視点で未来の都市デザインを構想する。

以上のことを踏まえながら、南草津エリアまちづくり推進ビジョン(みなくさビジョン)を策定するため、南草津エリアにおけるまちづくりの現状および課題、今後のまちづくりの方向性、みなくさビジョン(案)の内容等について意見交換をすることを目的に、草津市南草津エリアまちづくり推進懇話会を開催する。

(3) 大学生が住むまちプロジェクト

草津市は約 8,000 名の大学生が居住する都市でもあり、安全安心・快適な草津市のまちづくりにとって学生は重要な担い手でもある。オフキャンパスである地域で大学生が市民として生活し、大学生と地域の人が交流を通じてお互いに成長できるまちをつくることは地域の魅力を高めることに繋がる。これを促進することは産学公民連携のプラットフォームである UDCBK にとって重要な課題であるため、令和 2 年度は課題の場の提供から活用へ繋げる。

2. 学習事業

(1) アーバンデザインスクール（前期後期各 5 回→全 5 回）

市民と専門家をつなぐコミュニケーターを育成することを目的に、アーバンデザインの考え方や事例を専門家から体系的に学べる機会を提供し、今後のまちづくりに活かす。

(2) アーバンデザインセミナー（15 回程度→10 回程度）

広く市民がアーバンデザインを身近に感じることができるよう、テーマごとの相互学習の場と機会を提供する。また、その中で事業プロジェクトと連動したテーマやまちづくりに有益な話題を取り上げ、多様な層の問題関心に応える内容を目指す。

	開催日	内 容
第 1 回 ①②	7 月 3 日	テーマ:情報発信とまちづくり 講師:南部敏之氏(草津ファン☆プロ副代表)
第 2 回 ③	7 月 8 日	テーマ:フューチャー・デザイン～持続可能な未来に向けて 講師:原圭史郎氏(大阪大学大学院工学研究科教授) 武田史朗氏(立命館大学理工学部教授)
第 3 回 ④	7 月 11 日	テーマ:まちづくりシナリオメイキング 講師:佐藤滋氏(早稲田大学名誉教授) 阿部俊彦氏(立命館大学理工学部准教授)
第 4 回 ⑤⑥	7 月 22 日	テーマ:CASE 時代の新都市デザイン～Beyond MaaS がまち を変える 講師:牧村和彦氏(計量計画研究所理事) 塩見康博氏(立命館大学理工学部准教授)
第 5 回 ⑦	7 月 31 日	テーマ:未来における安全な都市を考える 講師:牧紀男氏(京都大学防災研究所教授) 金度源氏(立命館大学理工学部准教授)

※第 2 回から第 5 回までは「20 年後の南草津の『まちと交通』の未来を考えよう」の全 4 回シリーズ

3. 社会実験準備事業等

草津市が包括協定を締結する 7 大学を対象に UDCBK の提示するテーマについて社会実験の提案を準備事業として委託する。

令和 2 年度については、従来の枠組みを一部変更し、UDCBK の事業プロジェクトに基づいて行う A 区分、「健幸都市」に関わって UDCBK が募集するテーマに基づいて行う B 区分の採択件数を合わせて 5 事業程度とするほか（総額 100 万円）、募集開始時期の早期化など運用

上の改善を図る。

令和2年度については、下記のA区分1件、B区分5件を採択予定である。

＊募集要項配布：4月7日（令和元年度より2カ月前倒し）

＊募集締め切り：5月29日（新型コロナウイルス感染症の影響で4月28日から延長）

＊決定通知：6月19日

＊委託期間：契約日から令和3年2月26日

A区分

単位：円

募集テーマ	応募事業名	応募大学	事業責任者名	事業費総額	審査決定金額
住民参加の新しい公園づくり	住民参加の新しい公園づくりー南草津プリムタウンの公園中心型コミュニティデザインを目指すための社会実験	立命館大学	金 度源	300,000	300,000
				300,000	300,000

B区分

単位：円

募集テーマ	応募事業名	応募大学	事業責任者名	応募額	審査決定金額
安全・安心に配慮した公共空間の整備	街を楽しむ使いこなせるパブリックスペース～withコロナ／afterコロナの街の居場所のデザインを考える～	立命館大学	阿部 俊彦	200,000	200,000
歴史文化を活かすまちづくり	歴史的遺産に対する住民の態度変容を目的とした「歴史ARマップ」の開発と評価	立命館大学	塩見 康博	200,000	139,000
歴史文化を活かすまちづくり	街道の補助線ー歴史資産を繋ぎ、街道を顕在化させるアートワークとしての路面標示の実施ー	立命館大学	藤井 健史	200,000	132,000
健康活動を誘発する環境づくり	コロナ禍に対応する持続可能な食ビジネス地域支援システムの構築に向けた調査	立命館大学	阿良田 麻里子 吉積 巳貴	200,000	100,000
健康活動を誘発する環境づくり	子育てを楽しめるまちづくりを実現するための育児ストレスサポートシステム開発に向けたニーズ調査	滋賀大学	大平 雅子 芦谷 道子	199,100	129,000
				999,100	700,000

区分 A:1件㊦ 区分 B:5件㊦

A区分+B区分 総計	1,299,100	1,000,000
------------	-----------	-----------

4. オープンスペース

現在の場所に移転して3年余りが経過し、徐々にUDCBKの認知度が高まるにつれてオープンスペースは多様な層の利用が促進されてきた。南草津駅周辺で働き、学び、生活する多様な層が利用できるパブリックスペースが不足している中で、UDCBKはそのモデルとなるような場を事業の一環として提供している。多様な市民が「産学公民が連携して未来の都市のデザインのために人と情報が集まる」UDCBKのオープンスペースを“まちの広場”として利用することで、そこが多様な市民にとっての“サードプレイス”となるよう引き続き運営する。また、本事業での取り組みを従来の利用人数だけではなく、個人やグループの施設利用がまちづくりに寄与しているケースなどを把握できるよう工夫し、可視化する。

また、新型コロナウイルス感染症の拡大防止等の影響を鑑みて、交流、学習、協議のあり方等について変化が起きていることから、全国のUDCの動向を参考にしながらそのあり方を検討する。

5. 情報発信

UDCBK の活動を発信し、市民的理解を得ることは重要であり全国の UDC ネットワークにおいても情報発信は重視されている。UDCBK については、草津未来研究所の中の UDCBK 事業という位置付けで草津市のホームページに含まれており、独自アカウントは持たずデザインや運営等については一定の制約を受けている。

現在の報告中心のコンテンツから、UDCBK の基本情報およびセミナー等の企画など発信を重視した内容の改善に努める。

なお、公式アカウントを持つ Facebook の更新は週に 2 回を目標に、主に UDCBK での活動やそこから生まれた取り組み等を中心に掲載する。各種企画について公共施設・学校・団体などに定期的に広報媒体を提供し配布に協力してもらい、引き続き南草津駅デジタルサイネージの活用を行うなどの情報発信に努める。また、市の広報課とも連携し、市の Facebook での情報発信や立命館大学教職員向けの掲示板での情報発信等、関係者の協力を得ながら新たな情報発信に努める。

6. 法人化検討

令和元年度までに事業を進めながら法人化ワーキング部会で整理したメリット・デメリットに事業を当てはめ、組織形態など精査を実施してきたことから、令和 2 年度はさらに具体的に課題の整理を行い、検討を継続する。

また、新型コロナウイルス感染症の拡大防止等の影響を鑑みて、UDCBK の人と人の交流の仕方や組織のあり方等について変化が起きていることから、全国の UDC の動向を参考にしながら検討する。

7. その他

(1) 産学公民連携による英知を組織化するため、関係者との交流・勉強会を適時開催する。

令和元年度に繋がった各団体等との連携を深め、UDCBK の各事業に結びつける取り組みを強化する。

(2) 全国の UDC の先進的な取り組みに学び、UDC ネットワークとの交流を深める。